

巻頭言

なめがたファーマーズヴィレッジの開村

サツマイモ主役の体験型農業テーマパーク誕生

一般財団法人いも類振興会 理事長 狩谷 昭男

日本初となるサツマイモ主役の体験型巨大テーマパークNamegata farmers village（以下、「NFV」という。）は、2015年10月30日、茨城県の行方市にオープンした。

JAなめがたと白ハト食品工業(株)は、約50万㎡の敷地にサツマイモのキュアリング貯蔵庫、加工品工場や焼きいもミュージアム、レンタル農園などを整備した。新たに300人の雇用を生み出し、様々な見学の場を提供し、食と農の魅力を発信している。夢あふれる地方創生のモデルだ。

NFVは小学校跡地などを活用し、総事業費50億円で整備された。その運営は、JAなめがたと農家、白ハト食品工業が3億円出資して設立した農業生産法人「(株)なめがたしろはとファーム」が担っている。

メインエリアには、大学いもや干しいもの製造を見学できる工場棟、スイートポテト作りや焼きいもが学習出来るミュージアム棟、店舗やレストランの並ぶ商業棟がある。中核施設の工場棟では年間、大学いも1,400t、干しいも300tのほか、焼きいも、スイートポテトも製造する。その原料サツマイモは、JAなめがたから年間約3,000t、近隣のJAから約700tを仕入れる計画だ。これに加え、レンタル農園やオーナー専用おいも畑などの農業体験エリアが広がる。さらに森の遊歩道など、トレッキングエリ

アの整備も計画されている。

NFVの創業理念は、「日本の農業をステキにしよう！」だ。食と農業の未来を、「見る」、「食べる」、「育てる」ことによって繋ぐという。

この大プロジェクト実現のきっかけは、全国の農業地域に共通する少子高齢化、後継者不足や東日本大震災後の風評被害だった。具体的な戦略では、これまでの農業の6次産業化に観光、教育、IT農業、地域貢献、子育て、交流の6要素を加えて、12次産業化を目指す壮大な構想である。JAなめがたでは農家所得向上のためにもサツマイモ加工部門の強化が、白ハト食品工業も原料サツマイモの安定確保が、それぞれ喫緊の課題であった。

NFVの当面する課題は、次の3つであろう。

1つは、焼きいもミュージアムの現状では、学び楽しむには物足りなさを否めない。展示物や解説に創意工夫を加えるほか、旧校舎全体の有効活用が望まれる。

2つは、NFVのエリア内整備だけではなく、周辺地域の環境整備、美化運動も総合的に推進する必要がある。地域住民が一体となった「美しい村づくり」に期待したい。

3つは、県内外からの継続的な入村者確保のためには、多彩なイベント実施などの情報提供をはじめ、交通アクセスの利便性向上が大切だ。